

Hibワクチン

知っておきたいこと

ヘモフィルスインフルエンザ菌 b型 (Hib)

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis 多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

ヘモフィルスインフルエンザ菌 b型 (Hib) 感染症は、バクテリアが原因となる深刻な病気です。通常5歳以下の子供が感染します。特定の病気にかかった大人も感染する場合があります。

保菌の事実を知らない感染者に接近することで、Hib感染症になる可能性があります。菌は人から人へ感染します。菌が子供の鼻や喉にとどまった場合、発症することはおそらくありません。しかし肺・血液中で菌が増殖した場合、Hib菌は深刻な病気を引き起こします。これは侵襲性Hib感染症とよばれます。

Hibワクチン施行前は、米国の5歳未満の子供の細菌性髄膜炎の第1の原因がHib感染症でした。髄膜炎は、脳と脊髄を包む髄膜の感染です。脳の損傷・難聴に進展する場合があります。その他Hib感染症が引き起こす病気は、以下のものがあります：

- 肺炎
- 呼吸困難になるほどの喉の深刻な腫れ
- 血液・関節・骨・心膜の感染
- 死亡

Hibワクチン導入前の米国では、毎年5歳未満の子供約2万人のがHib感染症を発症し、そのうち約3-6%が死亡しました。

Hibワクチン接種によりHib感染症が予防できます。Hibワクチンが施行されてから、侵襲性Hib感染症の報告例は99%以上減少しました。ワクチン接種を中止すると、Hib感染症にかかる子供の数は増えることになるでしょう。

2 Hibワクチン

Hibワクチンは数種類のブランドから出ています。接種回数は使用ブランドにより異なり、3回または4回となります。

Hibワクチン接種の標準スケジュール：

- 第1回： 生後2カ月
- 第2回： 4カ月
- 第3回： 6カ月（使用ブランドにより必要な場合）
- 最終回（促進接種）： 12-15カ月

他のワクチンと同時にHibワクチンを接種してもかまいません。

Hibワクチンは、混合ワクチンとして接種してもかまいません。2種類以上のワクチンを注射1回分にまとめたのが混合ワクチンで、1度の接種で複数の病気を予防できます。

5歳を超えた子供・成人には、Hibワクチンの接種は通常必要ありません。無脾症・鎌状赤血球病にかかっている場合、脾臓摘出手術前・骨髄移植手術後には、年長の子供・成人であってもワクチンの接種が推奨される場合があります。5-18歳のHIV感染者にも接種が推奨される場合があります。詳細は医師にご相談ください。

詳しくは、医師または予防接種担当者にお尋ねください。

正確な予防接種状況、予防接種についての評価、今後の予防接種の推奨スケジュールを医療提供者に提供するため、情報はMichigan Care Improvement Registry (ミシガン幼児予防接種記録所)に送られます。予防接種情報が同記録所に送られないよう医療提供者に要請できる権利が誰にでもあります。



3

ワクチン接種を避けなければならない場合

Hibワクチンは、生後6週間未満の乳児は接種してはいけません。

今までにHibワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、またはワクチンの成分に強いアレルギーがある場合には、ワクチンを接種してはいけません。何らかの強いアレルギーがある場合は、医師にお伝えください。

軽い病気にかかっている場合、Hibワクチン接種を受けることができます。中程度から重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待たねばなりません。ワクチン接種当日に気分が優れない場合は、医師にお伝えください。

4

ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。たいていの場合症状は軽く、自然に治ります。深刻な反応が出る場合もありますが、まれです。

Hibワクチンを接種しても、ほとんどの場合に問題はありませぬ。

Hibワクチン接種後にみられる軽微な問題：

- 接種部分の痛み・熱・腫れ
- 発熱

これらの症状が現れるのはまれです。これらの症状は接種後すぐに現れ、2-3日続きます。

ワクチン予防接種後に想定される問題：

どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。このような反応は大変まれで、100万人中1人以下と推定されており、ワクチン接種後数分-数時間で症状が発生します。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

年長の子供・青年・成人では、ワクチンの種類にかかわらず接種後にこのような症状が出る場合があります：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳細はwww.cdc.gov/vaccinesafety/をご覧ください。

DCH-0449J AUTH: P. H. S., Act 42, Sect. 2126.

5

重大な反応があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応の症状としては、蕁麻疹・顔面と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後通常数分-数時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。
- その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。医師が報告する場合がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6

全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7

より詳しい情報は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
Hib Vaccine

4/02/2015

42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by the Oregon Health Authority

Office Use Only

